

【主な質疑応答】2022年12月期 第3四半期 決算説明会

【全社】

- Q. 今年の原材料価格高騰影響額、来期の影響額想定は？
- A. 今期、日本は年間で約 250 億円程度、海外はエネルギー価格の高騰の影響もあり、約 350 億円の影響があると見ており、全社計では約 600 億円。来期は、非常にボラティリティも大きく、なかなか影響を見通すことは困難な状況だが、今年の上半期からだんだん価格が上昇しているため、来年の上半期はその裏返しが効いてくる。下半期の予想となるとさらに難しいが、少なくとも通年で今年と同規模(600 億円)あるいはそれを超える影響があるとの想定のもとで、活動を組み立てていく。
- Q. 第3四半期累計(1-9月)の非経常的損益の内容は？来期は各リージョンで増益を目指すとのことだが、今期発生した非経常的損益を除いた既存ベースで増益を目指す？
- A. 今期、第2四半期にフレッシュコーヒーの事業を譲渡し、譲渡益 158 億円を計上した。第3四半期には、アジアパシフィックで事業ポートフォリオ見直しに伴い、47 億円の費用を計上。加えて、欧州では、スペインの生産統合に伴い、17 億円の費用を計上。来期については、既存事業ベースで増益を目指す。
- Q. 第3四半期累計(1-9月)は、日本は下振れているが、既存事業ベースにおいても全社で上振れ基調？計画を上回っているため業績予想を上方修正？
- A. 既存事業ベースでは、第3四半期累計(1-9月)で増益。為替換算レートの修正及び特に欧米の業績上振れを反映し、業績予想の上方修正を実施する。

【日本】

- Q. 10月からの価格改定の状況は？価格、数量の評価は？
- A. 10月1日より順次実行中。まだあまり時間がたっておらず、影響については現在まきに見極めている。昨年10月が好天であったことと、コロナの規制解除で大幅に売上が増加したことの反動もあり、10月単月を見たときに価格改定の影響を切り離して見ることがなかなか困難な状況。9月の仮需は大体2-3%と推定しており、ある程度その影響も受けていると考えている。今後の影響をよく注視していく。

Q. 第4四半期(10-12月)は4億円の減益予想か?その組み立て方は?販売単価が第4四半期で8%上がる計算になるが、正しいか?

A. 第4四半期(10-12月)で4億円の減益予想。その上で利益構造をどうするのか、ということだが、1つは価格改定効果。価格改定による年間影響は200億円強、第4四半期も売上構成程度には効いてくる見通し。もう一つは、チャンネルミックス改善の効果。今までCVS、自販機の回復が遅れていて、スーパーが大きく伸長するという構造であったが、この第4四半期はこの相対的な構成が変化することで、販売単価も伸びる見通し。

Q. 第4四半期(10-12月)以降、チャンネルミックス改善傾向が続くのであれば、価格改定及びチャンネルミックス改善効果で、現在想定している年間250億の原材料価格高騰影響は吸収できるのではないか?第4四半期にチャンネルミックス改善効果を高めに想定している背景は?

A. 第4四半期のチャンネル構成が、来年1年間ずっと同じ構成になるということではない。第4四半期だけを切り取ると、価格改定に伴い一時的にスーパーの売上に影響がでていと見ている。来期は、数量増、価格改定効果に加えてSCコスト改善活動等にも取り組みながらコスト増の利益への影響を低減させていく。

【海外】

Q. 欧州。第4四半期(10-12月)は既存事業ベースで増益計画。達成確度は?

A. 第4四半期(10-12月)も、原材料価格・エネルギー価格高騰影響を大きく受ける想定だが、足元の需要は堅調であり、販売数量は伸びる想定。機動的な価格改定を行っており、安定した営業利益を見込む。

Q. 欧州やアジアのダウントレードやPB伸長。SBFに影響はあるか?

A. PBの影響は基本的に今は受けていない。ダウントレードの傾向もないと見ている。

Q. 健康食品は問題ないか?

A. いくつかの要因により減収減益。タイは、アジアの中では高いインフレとなっており、消費者センチメントが低下していること、GDPの一定割合を占めている観光客の戻りがまだ3-4割程度であること、地方で大洪水被害があったこと、競合との価格差が開いてしまったことなどが影響している。健康食品事業において、売上の大半をしめるEssence of Chickenのリニューアルが10月に行われ、11月より販促活動を開始している。何とかこれで第4四半期巻き返したい。